

# 履修の手引き

## 社会学類生のための履修ガイド

### 主な内容

- ・社会学類年間スケジュール - 主専攻決定手続き日程、卒業論文提出期限などの重要情報
- ・履修上の諸注意 - 『後から気づいた』では手遅れの可能性もある履修原則やGPA算出方法など
- ・各主専攻別履修細則・履修ガイド - 主専攻決定基準、主専攻別注意事項、卒業に必要な主専攻別情報、さらに学習方法上の有益情報

### 注意

- ・社会学類の開設科目シラバス（講義内容）は教育課程編成支援システム: KdB（<https://kdb.tsukuba.ac.jp>）で閲覧すること（右QRコード）。



シラバス、KdBには社会学類ホームページ（<http://shakai.tsukuba.ac.jp>）からもアクセスできる（右QRコード）。



- ・本冊子は履修ガイドであり、ルールブックではない。各自、『履修要覧』『開設授業科目一覧』を熟読すること。

# 目 次

## 第1部 社会学類生の年間スケジュール

社会学類学生の年間予定表	3
--------------	---

## 第2部 履修上の諸注意事項・科目番号一覧

履修上の諸注意事項・G P Aの算出方法	4
履修科目の登録の上限・学群学生の大学院授業科目履修	5
早期卒業・履修の原則	6
社会学類の特色	7
科目番号一覧	8

## 第3部 各主専攻別履修ガイド：

『履修細則（別表）』および『履修ガイド』

履修の原則・履修細則の変更点	9
<b>社会学主専攻</b>	11
<b>法学主専攻</b>	16
<b>政治学主専攻</b>	21
<b>経済学主専攻</b>	26

# 第1部 社会学類生の年間スケジュール

## 主専攻決定、卒論関連予定表

学 年	事 項	提出期間	対象学生
2年次 (含秋学期入学者)	主専攻希望届提出	2月第2週	
3年次 (含秋学期入学者)	卒業論文仮題目届提出	12月第3週	社会学主専攻の学生のみ
4年次	卒業論文題目届提出	5月最終1週間	主専攻にかかわらず、卒業論文提出者全員
	卒業論文中間発表	10月上旬 (予定)	社会学主専攻の学生のみ
		11月中旬 (予定)	法学主専攻の学生のうち「卒業論文」履修者のみ
	卒業論文題目変更届提出	11月上旬	変更・追加のある学生のうち、経済学主専攻を除く学生のみ
		12月上旬 (予定)	経済学主専攻の学生のみ
	卒業論文提出	1月第4月曜日から水曜日	主専攻にかかわらず、卒業論文提出者全員

【注意事項】TWINSの掲示およびメールでも案内する。よく確認すること。

- 提出先 卒業論文： 人文社会エリア支援室学群教務担当の窓口  
そのほかの書類： 人文社会エリア支援室学群教務担当
- 用紙 卒論以外の提出物はすべて所定の用紙を使用（支援室の資料配布ボックスで配布）
- 締め切りの厳守について **受付期間・締切時間に遅れたものは、一切受け付けない。**  
(止むを得ない事情がある場合には、必ず事前に連絡すること。)
- 主専攻選択について： 主専攻選択後は原則として変更を認めない。
- 春学期卒業予定者（秋学期入学者を含む）、早期卒業を志望している者は、指導教員・クラス担任に早めに相談すること。

## 第2部 履修上の諸注意事項・科目番号一覧

興味ある講義を効果的に履修しながら、卒業単位を修得するには、シラバスや開設授業科目一覧の活用が必須である。

- KdB（筑波大学 教育課程編成システム）を使い、オンラインで『開設授業科目一覧』及び各科目の『シラバス（授業概要）』を閲覧することができる。KdB閲覧方法は、本冊子「第3部 KdBによる社会学類開設『開設授業科目一覧』『シラバス』閲覧マニュアル」でも確認できる。
- 後日申請の科目はKdBに掲載できていない場合がある。随時掲示する。注意すること。
- 非常勤講師の担当科目のうち、4月の段階でKdBに掲載できていない場合がある。掲示等に注意すること。
- 他学類開設の共通科目のシラバスには、KdBに掲載されていない場合もある。必要に応じて開設学類の冊子体シラバス等を適宜参照すること。

### 卒業要件に算入できるオンライン科目の単位数

授業形態がオンラインの科目については、卒業要件に算入できる単位数の上限が60単位までと大学設置基準により定められている。

ただし、令和4年度までに修得したオンライン授業科目の単位数は、緊急時の特例措置として、この60単位上限に含まれない。令和5年度以降にオンライン授業により修得した単位数は、この60単位上限に含まれる。

よって特に令和5年度以降に入学した学生は、この上限に注意して履修計画を立てること。令和4年度以前に入学した学生であっても、オンライン科目に過度に偏った履修計画を立てないように注意すること。

以上を含め、本学の新型コロナウイルス感染症への対応（学生へのお知らせ）が、本学ホームページ <https://www.tsukuba.ac.jp/about/antidisaster-crisismanagement/covid-19/>

に掲載されている。確認すること。（右はこのURLのQRコード）



### GPAの算出方法（平成28.4.1改正）

$$GPA = \frac{(A^+の単位数 \times 4.3 + Aの単位数 \times 4 + Bの単位数 \times 3 + Cの単位数 \times 2 + Dの単位数 \times 0)}{\text{履修登録単位の合計} (\ast)}$$

- ※ 対象となる科目は、卒業要件に関わる授業科目のうち、次の科目を除いたもの
- 本学で修得した単位と認定された授業科目（編入学者の場合など）
  - 成績が「P」または「F」で評価される授業科目
  - 学類長からの要請を踏まえ学群長が指定する授業科目

## 履修科目の登録の上限

卒業に必要な修得単位数は126単位である。

学生が1年間に履修科目として登録することができる単位数は、45単位までである（学群学則第33条参照）。ただし、

1. 以下の科目は年間履修登録の上限から除外する。

・**当該年度の途中で開講が決定された社会学類開設の専門科目**（開講決定の掲示において上限の対象外であることが明記された科目に限る）。

**（注意）**これに該当しない当該年度の開始時に開講が決定されている科目は、本学HPの**開設科目一覧**に記載されている。

<https://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses-openclass/>

右はQRコード



・教職に関する科目（「教科に関する科目」は年間履修登録の上限から除外されないの注意すること）。

2. 下記①または②に該当する学生は、所定の手続きを経て、45単位の上限に10単位まで加え、1年間に合計55単位まで履修登録することができる。

① 前年度の年間GPAが3.6以上である者で、クラス担任の許可を得た者。

② クラス担任が特別な事情があると認めた者。

（「特別な事情」には、「編入学」「留学準備」（ただし留学先大学が決定している場合に限る）等が該当する）

**原則として上記①を満たす前年度成績の優秀な学生が申請すべきものである。**

## 学群学生の大学院授業科目履修

所属する学群において成績優秀と認められ、かつ、本学の大学院に進学（入学）を希望する者については、所定の手続きを経て、原則として学群・学類4年次において、大学院の授業科目を履修することができる。

なお、本制度は、学群学生への履修指導の一環として実施するものであるが、大学院の研究群・学位プログラム等によっては、事情により、本制度を導入しない場合もある。

申請に当たっては、クラス担任等の指導の下に申請すること。

1. 申請資格

(1) 第3年次終了時点（秋学期入学者は第3年次3月終了時点）で、学生が所属する学群・学類において成績優秀と認める者。

(2) 本学の大学院に進学を希望する者。

2. 履修単位の取扱い

履修した単位については、本学の大学院入学後、既修得単位として認定される。（本学の大学院に進学（入学）した場合に限って単位が授与される。）

3. 履修に当たっての学費

本制度による大学院授業科目の履修に当たっては、別途授業料は必要ない。ただし、授業の教材費等については、本人負担となる。

## 早期卒業

筑波大学に3年以上在学した学生で、卒業要件を満たす単位を優秀な成績で修得した学生であって、かつ当該学生が希望する場合には、学類教育会議及び学群運営委員会の議を経て、学長が卒業を認定することができる（筑波大学『履修要覧』学群学則40条参照）。

（これを希望する者は、履修計画や卒業論文等について、クラス担任及び各主専攻の担当教員と十分に相談すること。）

1. 3年次末卒業を希望する者（秋学期入学者を含む）は、2年次までの修得単位数と3年次の申請予定単位数の合計が卒業要件を満たし、かつ申請時までの累積GPAが4.0以上である者。
2. 4年次春学期末卒業を希望する者（秋学期入学者を除く）は、3年次までの修得単位数と4年次春学期の申請予定単位数の合計が卒業要件を満たし、かつ、申請時までの累積GPAが4.0以上である者。
3. 秋学期入学の学生で、4年次秋学期末卒業を希望する者は、3年次までの修得単位数と4年次秋学期の申請予定単位数の合計が卒業要件を満たし、かつ、申請時までの累積GPAが3.8以上である者。

## 履修の原則

- ・履修は、各自の入学時に配布された（当該年度の）『履修要覧』に従うこと。

諸君のルールブックである入学時の『履修要覧』を紛失しないよう注意すること。

- ・『履修要覧』に『社会・国際学群「履修細則」』およびその「別表」があり、さらに「別表」には（注）がある。履修にあたっては、これらすべてに厳格に従わなければならない。
- ・『履修要覧』は変更される場合がある。掲示等には十分な注意を払うこと。

## 社会学類の特色（専門基礎科目）

後述の各主専攻の『履修細則』の「別表」を見ながら、以下を読むとイメージしやすい。

各分野（社会学・法学・政治学・経済学）の基礎的素養を身につけた上で、各専門分野を履修する。

こうして学生諸君は、我々の社会が直面している様々な問題を発見・分析することができる。このように多面的にアプローチすることで、より良い解決策の立案能力を獲得できるようになる。

したがって**社会学類の各主専攻に進む場合、その主専攻以外の専門基礎科目も履修するようにカリキュラムは編成されている。**

3年次以降、各自の好奇心にしたがって専門分野（社会学・法学・政治学・経済学）に進み知識を深めていくためにも、

**専門基礎科目の履修は極めて重要**であり、積極的な学習が望まれる。

## 科目番号一覧

後に詳述される『履修細則』の『別表』を正確に把握するためにも不可欠な情報でもある。『別表』は卒業に必要な事項を説明しており、重要である。

科目番号							科目番号の意味	
1	2	3	4	5	6	7	学群(一桁目)	学類(二桁目)
A	A						人文・文化学群	学群共通
	B							人文学類
	C							比較文化学類
	E							日本語・日本文化学類
B	A							学群共通
	B	1					社会・国際学群	社会学類(社会学主専攻)
	B	2						社会学類(法学主専攻)
	B	3						社会学類(政治学主専攻)
	B	4						社会学類(経済学主専攻)
	B	0						社会学類(その他、専門導入科目など)
	C						人間学群	国際総合学類
	E							社会国際学教育プログラム
C	A							学群共通
	B							教育学類
	C							心理学類
	E						障害科学類	
E	A						生命環境学群	学群共通
	B							生物学類
	C							生物資源学類
	E							地球学類
F	A							学群共通
	B						数学類	
	C						物理学類	
	E						化学類	
	F						応用理工学類	
	G						工学システム学類	
	H						社会工学類	
G	A						情報学群	学群共通
	B							情報科学類
	C							情報メディア創生学類
	E							知識情報・図書館学類
H	A						医学群	学群共通
	B							医学類
	C							看護学類
	E							医療科学類
W	A						体育専門学群	
Y							芸術専門学群	
8							自由科目(特設)	
9	9						博物学に関する科目	

## 第3部 各主専攻別 履修ガイド

### 『履修細則（別表）』および『履修ガイド』

主専攻別の履修ガイドに入る前に、再度、履修の原則と主専攻間共通の注意を記載する。

#### 履修の原則と注意

- ・履修は、各自の入学時に配布された『履修要覧』に従うこと。
- ・『履修要覧』に「**社会・国際学群『履修細則』**」および、**主専攻別の『別表』**がある。「別表」には次ページのような（注）がある。履修はこれらに厳格に従うこと。
- ・『履修要覧』は変更される場合がある。
- ・筑波大学では掲示をもって公告としている。掲示等には十分な注意を払うこと。

#### 入学年度別の履修細則変更点

1. 入学年度にかかわらず早期卒業の要件を本冊子6ページ「早期卒業について」に記載の通り修正する。
2. 令和5年度入学生から、経済学主専攻の『履修細則』「別表」が、前年度までとは変更されている。注意すること。
3. 令和8年度入学生から、主専攻にかかわらず『履修細則』「別表」が、前年度までとは大幅に変更されている。注意すること。

令和8年度以降入学生用の履修細則・別表の変更点

別表第2（第4条関係）の削除

# 社会学主専攻

## 社会学主専攻について

1. 授業科目の履修は、主専攻分野の選択の目安（下表）、および、卒業に必要な条件（入学年次別履修細則（別表））を念頭に置きながら、各自の関心にそって自主的かつ計画的に行うことが必要である。また、志望する主専攻分野が未定の学生は、将来の自分の選択肢を狭めることのないよう各主専攻の条件を考慮しながら、独自に履修計画を立てる必要がある。
2. 主専攻分野の選択の目安となる履修科目と単位数は、次の通り。

社会学主専攻分野の選択の目安
単位数の総計が30単位に達していること。 【専門科目及び専門基礎科目の12単位を含む。 ただし社会学基礎論及び現代社会論は必ず履修すること。】

3. 卒業に必要な条件（履修科目及び単位数）は、次ページ以降の「入学年次別履修細則（別表）」および入学時に配布された『履修要覧』を参照すること。卒業要件は入学年次によって異なるので注意すること。
4. 同一の学期・曜日・時限に開設される科目を2科目以上履修することはできない。
5. 名称が全く同一の科目は重複して履修できない。また、旧科目名が開設授業科目一覧の備考欄で示されている科目とその旧科目とは、重複して履修できない。
6. 他学類・他主専攻開設の授業科目と共通する授業科目（開設授業科目一覧の備考欄に表示）は、必ず社会学類・社会学主専攻の授業科目番号（例えばBB1）のほうで履修申請を行うこと。



# 2022年度入学者

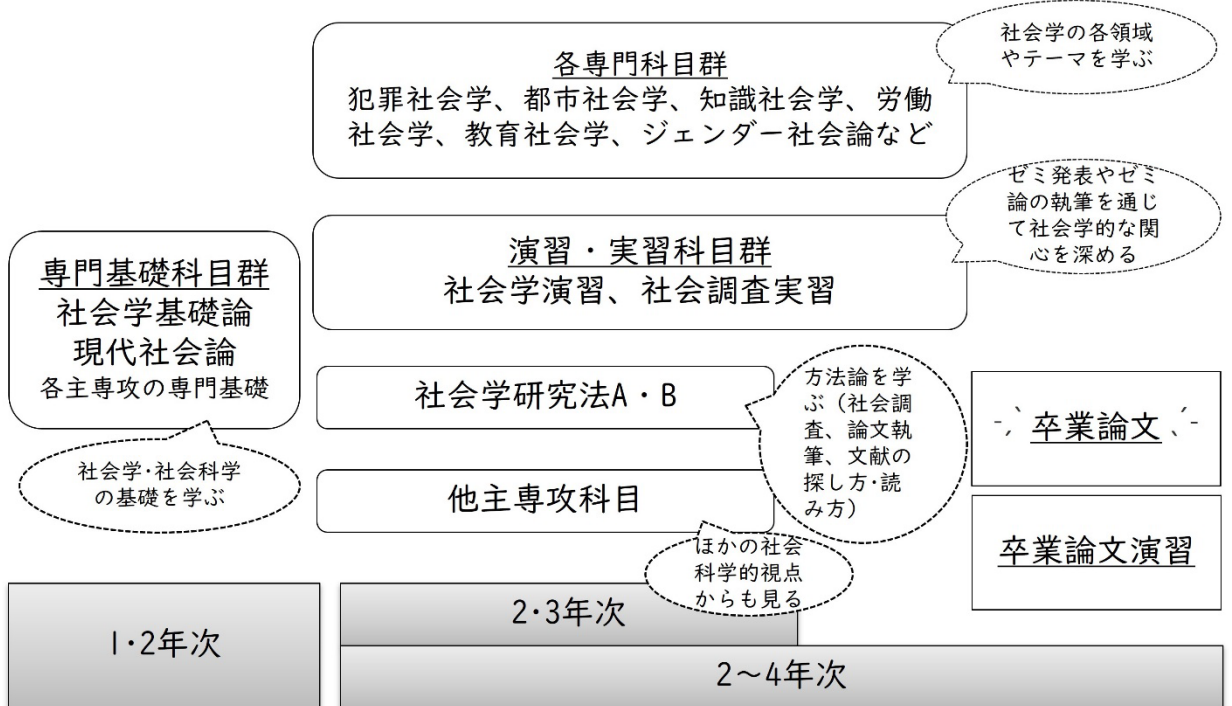
主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																					合			
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目												計		
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目			関連科目					必修科目			選択科目	自由科目
社会学	卒業論文	6	B B1	30~56		社会学基礎論	4	法学概論	6~12		総合科目 (ファーストイヤーセミナー、学問への誘い)	2	総合科目 (学士基礎科目)	1~3			教職に関する科目	0~8			32	94	0		
	卒業論文演習	4	社会調査実習、社会学演習から12単位修得すること。			現代社会論		民事法概論									A、B、C、C、H、W、Y、8、9 9	10~20							
	社会学研究法	2	(必ず社会学演習を6単位以上含めること)					政治学概論									E、F、G	2~10							
			B B2	19~44				国際政治史																	
			B B3					経済学基礎論			体育	2	体育	0~2				BA (専門基礎科目として指定されている科目を除く)	0~12						
			B B4					現代経済史			第1外国語	4	外国語	0~6				BE							
			(専門基礎科目として指定されている科目を除く)					社会学の最前線	2~4		第2外国語	4	国語	0~2											
								法学の最前線			情報	4	芸術	0~2											
								政治学の最前線																	
								社会学の最前線 チュートリアル	0~4																
							法学の最前線 チュートリアル																		
							政治学の最前線 チュートリアル																		
							経済学の最前線 チュートリアル																		
	単位合計	12		49~74			4		8~20			16		1~15		0				12~36		32	94	0	126

# 2021年度入学者

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																					合			
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目												計		
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目			関連科目					必修科目			選択科目	自由科目
社会学	卒業論文	6	B B1	30~56		社会学基礎論	4	法学概論	6~12		総合科目 (フレッシュマン・セミナー、学問への誘い)	2	総合科目 (学士基礎科目)	1~3			教職に関する科目	0~8			32	94	0		
	卒業論文演習	4	社会調査実習、社会学演習から12単位修得すること。			現代社会論		民事法概論									A、B、C、C、H、W、Y、8、9 9	10~20							
	社会学研究法	2	(必ず社会学演習を6単位以上含めること)					政治学概論									E、F、G	2~10							
			B B2	19~44				国際政治史																	
			B B3					経済学基礎論			体育	2	体育	0~2				BA	0~12						
			B B4					現代経済史			第1外国語	4	外国語	0~6				BE							
			(専門基礎科目として指定されている科目を除く)					社会学の最前線	2~4		第2外国語	4	国語	0~2											
								法学の最前線			情報	4	芸術	0~2											
								政治学の最前線																	
								経済学の最前線																	
	単位合計	12		49~74			4		8~16			16		1~15		0				12~36		32	94	0	126

# 社会学主専攻の科目体系

- 下記のカリキュラムをこなし、4年次に4万字以上の「卒業論文」の執筆をめざします。



- 社会学主専攻の教育目標は、【卒業論文の完成】にある。上図の通り、本主専攻の科目の多くは、それに向けて配置されている。
- 卒業論文とは、自分で問題をたて、先行研究を検討し、分析視角・分析手法を決めて、調査・データ収集を行い、分析・考察を経て、自ら一定の答えを用意することである。
- 卒論では、高校までの授業のように「問題は先生が作り、それを学生が解答する」のではなく、「問い」も自らたてる必要がある。各自の自主性を重んじるという点から、テーマの選択は、学生の自主性に任せている。仮題目届の提出時までにはテーマ選択や執筆プランをよく考え、指導を希望する教員とよく相談すること。（仮題目届提出の1ヶ月前くらいから連絡し始めること）
- また、卒業論文演習の履修において求められることとして、秋に行われる「卒業論文中間報告会」での発表がある。社会学主専攻への進学を考えている1・2年次学生、仮題目届提出を控えた3年次学生は、卒論中間報告会に参加し、参考にするとよい。（日程や場所については別途掲示する）

# 法学主専攻

# 法学主専攻について

1. 法律の科目を学ぶ場合には、時間割の空いている時間を埋めることのみを優先せず、「入学年度別履修細則」の次にある「法学主専攻履修ガイド」を参考に、授業担当の先生に相談する等して、充実した、内容のある効率的な履修計画を心がけて欲しい。
2. 履修計画を立てる際には、主専攻分野の選択の目安となる履修科目と単位数および卒業に必要な履修科目と単位数を考えて行うこと。
3. 主専攻分野の選択の目安となる履修科目および単位数は、次の通り。

## <<法学主専攻分野の選択の目安>>

- 単位数の総計が30単位に達していること。  
【専門科目の4～6単位〔憲法Ⅰ、憲法Ⅱ、民法総則、刑法総論の中から選択〕及び専門基礎科目（法学概論、民法概論を含む。）の8単位を含む。】

4. 卒業に必要な履修科目および単位数等の条件は、入学時に配布された「履修要覧」に記載されているので参照のこと。合計の単位数だけでなく、専門科目・専門基礎科目・基礎科目等の区分ごとに必要な単位数を満たす必要があること、卒業に必要な単位としてカウントされる単位数の上限が区分ごとに決まっていることに十分注意を払うこと。
5. 演習（ゼミナール）履修上の注意
  - (1) 同時に複数の演習を履修する場合は、各担当教員の許可を得ること。
  - (2) 卒業に必要な「BB2の演習科目」の単位数（平成25年度以降入学者は4単位、平成31年度入学者は6単位）を超えて取得したBB2の演習科目の単位については、専門科目一選択科目の“BB2科目”（平成24年度以前の履修要覧ではBB21科目）の単位として扱われる。ただし、演習科目に限らず、1つの科目の単位数を分割することはできないので注意すること。※例：平成31年度入学者が、○○演習（2単位）、◇◇演習（2単位）、□□演習（4単位）の単位を取得した場合、○○演習と□□演習の合計単位数を「BB2の演習科目」の6単位、◇◇演習の2単位を「専門科目一選択科目の“BB2科目”」の2単位として読むことは可能だが、□□演習の4単位を2単位・2単位に分割して、その片方を○○演習と◇◇演習の合計単位数（4単位）と合算して「BB2の演習科目」の6単位とすることはできない。
6. その他  
※社会学類開設の授業科目のなかで、他の学類開設の授業科目と共通の授業科目となっていることが開設授業科目一覧の備考欄に示されている科目は、必ず社会学類の科目番号（例えばBB2）で履修申請を行うこと。  
※履修申請にあたっては、申請漏れや変更がないように十分留意し、所定の期間内に手続を行なうこと。  
※令和9年度から、法学主専攻の授業科目は大幅に改変される予定である。法学の最前線、法学概論、民法概論、憲法Ⅰ、憲法Ⅱ、民法総則、刑法総論を除き、令和8年度まで開講されていた授業科目（演習含む）のほとんどは開講されなくなることが予想される。そのことを考慮に入れて履修申請を行うこと。

# 法学主専攻 入学年度別 履修細則 (別表)

## 2024年度以降入学者

(社会学類)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																									
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目										計			合計		
	必修科目	単位数	選択科目		自由科目	必修科目	単位数	選択科目		自由科目	単位数	共通科目					関連科目					必修科目	選択科目		自由科目	単位数
			単位数	単位数				必修科目	単位数			選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数					
単位数			単位数	単位数				単位数	単位数			単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数					
法学	—	—	BB 2	—	—	法学概論	4	社会学基礎論	—	—	総合科目 (ファーストイヤーセミナー、学問への誘い)	2	総合科目 (学士基礎科目)	1~3	—	—	—	教職に関する科目	0~8	—	—	20	106	0	126	
			憲法I、 憲法II、 民法総則、 刑法総論から4単位以上	40~62			民事法概論		現代社会学論	6~12		体育	2	体育	0~2			A、B、C、C、H、 W、Y、V、8、 99 (A B 0 0、 A B 0 0、B C 1 1は除く)	10~34							
			BB 2の演習科目から6単位以上修得すること					政治学概論		国際政治史		第1外国語	4	外国語	0~6			E、F、G	2~26							
			BB 1 BB 3 BB 4 (専門基礎科目として指定されている科目を除く)	21~42				現代経済史		経済学基礎論		第2外国語	4	国語	0~2			BA (専門基礎科目として指定されている科目を除く)	0~12							
		AB 0 0 AB 6 0 BC 1 1	0~10				社会学の最前線		社会学の最前線		情報	4	芸術	0~2												
単位合計	0		61~84	0		4		8~20	0		16		1~15	0		0		12~36	0		20	106	0	126		

# 2022・2023年度入学者

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																																		
	専門科目				専門基礎科目						基礎科目						計			合計															
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目			関連科目			必修科目		選択科目	自由科目													
													必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数					必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数							
単位数													単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数					単位数	単位数	単位数	単位数	単位数								
法学	—	—	BB 2	40～62	—	—	法学概論	4	社会学基礎論	6～12	—	—	総合科目(ファーストイヤーセミナー、学問への誘い)	2	総合科目(学士基礎科目)	1～3	—	—	—	—	教職に関する科目	0～8	—	—	20	106	0	126							
			憲法I、憲法II、民法総論、刑法総論から4単位以上																																
			BB 2の演習科目から6単位以上修得すること																																
			BB 1 BB 3 BB 4 (専門基礎科目として指定されている科目を除く)																																
		AB 0 0 AB 6 0 BC 1 1	0～10																																
単位合計	0		61～84	0			4		8～20	0			16		1～15	0		0		12～36	0		20	106	0	126									

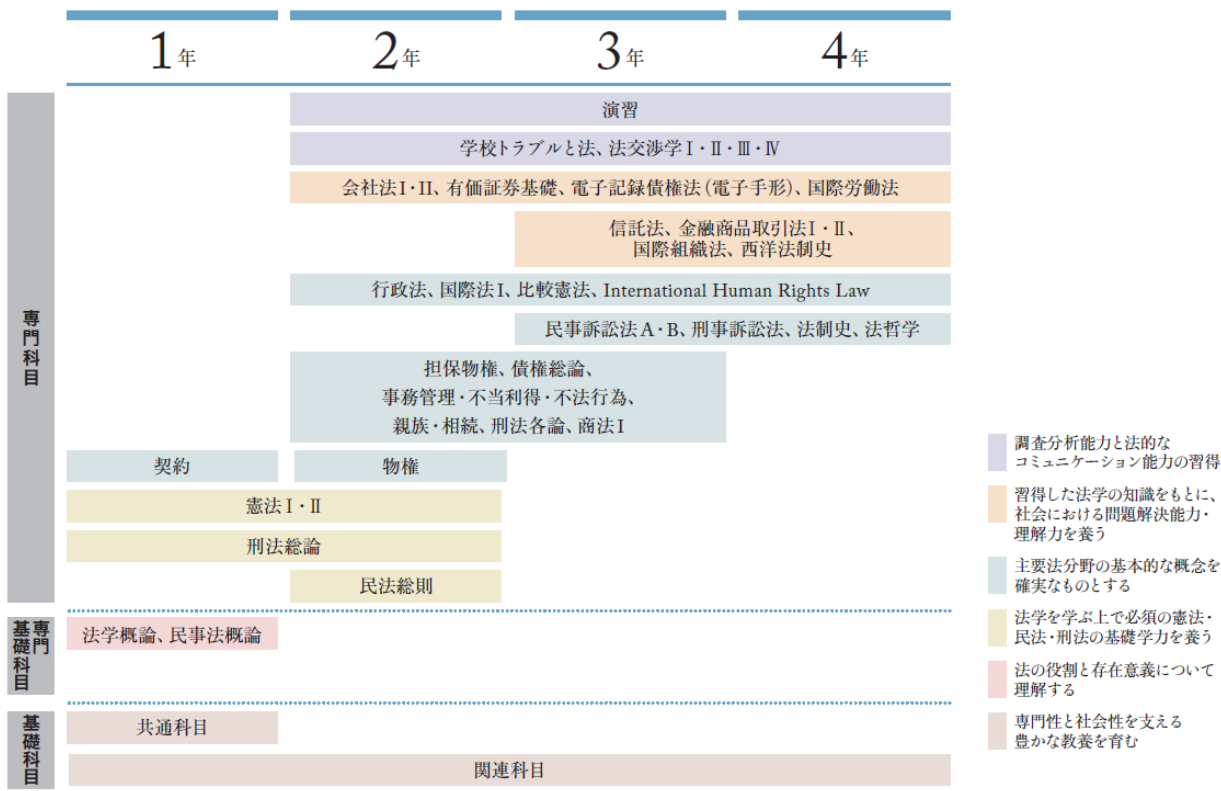
# 2020・21年度入学者

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																																		
	専門科目				専門基礎科目						基礎科目						計			合計															
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目			関連科目			必修科目		選択科目	自由科目													
													必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数					必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数							
単位数													単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数					単位数	単位数	単位数	単位数	単位数								
法学	—	—	BB 2	40～62	—	—	法学概論	4	社会学基礎論	6～12	—	—	総合科目(レッスンの誘い、学問への誘い)	2	総合科目(学士基礎科目)	1～3	—	—	—	—	教職に関する科目	0～8	—	—	20	106	0	126							
			憲法I、憲法II、民法総論、刑法総論から4単位以上																																
			BB 2の演習科目から6単位以上修得すること																																
			BB 1 BB 3 BB 4 (専門基礎科目として指定されている科目を除く)																																
		AB 0 0 AB 6 0 BC 1 1	0～10																																
単位合計	0		61～84	0			4		8～16	0			16		1～15	0		0		12～36	0		20	106	0	126									

# 法学主専攻 履修ガイド

法学主専攻に関するカリキュラムは、法学の学修成果を身に付けるため、おおよそこの図のような年次での履修を念頭に配置されている。

育成する能力とカリキュラムの構造



(この図に掲載された科目とその年度に開講される科目が一致しない場合もあるので、開設授業科目一覧、Kdb(筑波大学 教育課程編成システム)によるオンライン版『開設授業科目一覧』、Web掲示板、紙媒体による掲示、TWINS等の情報に注意して欲しい。)

法学主専攻の専門科目には、基本的な理論を扱う授業、社会に出て役立つ実践的な内容を取り上げる授業、法的視点からのコミュニケーション力を高める授業等の、多彩な科目が用意されている。

これらを総合的に考慮し、1年次から4年次に至るまで、法的な知識・理解度・意識・関心の高まりに合せて、効率的かつ必要な履修ができるよう工夫された配置となっている。

ただ、中には隔年開講や集中講義等の科目もあり、同じ学期曜時限に開講される科目もあるので、単年度では履修できない場合、複数年度でうまくやりくりする等の工夫をして欲しい。

平成27年度に新設された科目である「卒業論文」は、卒業のための必修科目ではないが、あるテーマについてより深く学びたい、法学主専攻における自らの修学の集大成を形にしたいといった学生に対して開かれた科目である。履修のための条件、履修申請の仕方等、他の科目と異なるところがあるので、掲示(Web掲示板や紙媒体)には十分に注意して欲しい。

# 政治学主専攻

## 政治学主専攻について

1. 授業科目の履修は、主専攻分野の決定に必要な条件および卒業に必要な条件を念頭に置きながら、各自の関心に沿って自主的かつ計画的に行うことが必要である。特に、1・2年次において志望する主専攻分野を内定していない学生は、各主専攻の条件を考慮して、独自に履修計画を立てなければならない。
2. 主専攻分野の選択の目安となる履修科目と単位数は、次のとおり。

主専攻分野の選択の目安
単位数の総計が30単位に達していること。【専門科目及び専門基礎科目（政治学概論及び国際政治史を含む。）の12単位を含む。】

3. 卒業に必要な条件（履修科目及び単位数）はこの冊子に掲載されている「履修細則（別表）」および入学時に配布された「履修要覧」を参照すること。なお、卒業に必要な条件は入学年度によって異なるので注意すること。
4. 同一の学期・曜日・時限に開設される科目を2科目以上履修することはできないので、履修申請の際には留意すること。

※ 履修申請の際には、申請漏れや変更がないように十分留意し、所定の期間内に手続をすること。

※ 社会学類開設の授業科目のなかで、他学類開設の授業科目と共通の授業科目（開設授業科目一覧の備考欄に表示）は、必ず、社会学類の授業科目番号（例えばBB3）で履修申請を行うこと。

# 政治学主専攻 入学年度別 履修細則 (別表)

## 2025年度入学者

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																							合計				
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目										計							
											共通科目					関連科目												
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目		単位数			
政治学	-	-	BB3 (ただしBB32を6単位数以上含めること)	30~53	-	-	政治学概論 国際政治史	4	社会学基礎論 現代社会論	6~12	-	-	総合科目(ファーストイヤーセミナー、学問への誘い)	2	総合科目(学士基礎科目)	1~3	-	-	-	教職に関する科目	0~8	-	-	20	106	0	126	
			BB1	31~54  (専門基礎科目として指定されている科目を除く)			法学概論 民事法概論 経済学基礎論 現代経済史	6~12	社会学の最前線	2~4			体育	2	体育	0~2				A、B、C、C、H、W、Y、V、8、9	10~34							
			BB2				政治学の最前線	2~4					第1外国語	4	外国語	0~6				E、F、G	2~26							
			BB4				経済学の最前線	0~4					第2外国語	4	国語	0~2				B A (専門基礎科目として指定されている科目を除く)	0~12							
							社会学の最前線 チュートリアル 法学の最前線 チュートリアル 政治学の最前線 チュートリアル 経済学の最前線 チュートリアル	0~4					情報	4	芸術	0~2				BE								
	単位合計	0		61~84	0		4		8~20	0			16		1~15	0	0			12~36			0	20	106	0	126	

## 2024年度入学者

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																							合計			
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目										計						
											共通科目					関連科目											
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目		単位数		
政治学	-	-	BB32	6~12	-	-	政治学概論 国際政治史	4	社会学基礎論 現代社会論	6~12	-	-	総合科目(ファーストイヤーセミナー、学問への誘い)	2	総合科目(学士基礎科目)	1~3	-	-	-	教職に関する科目	0~8	-	-	20	106	0	126
			BB31	24~42			法学概論 民事法概論 経済学基礎論 現代経済史	6~12	社会学の最前線	2~4			体育	2	体育	0~2				A、B、C、C、H、W、Y、V、8、9	10~34						
			BB1	31~54  (専門基礎科目として指定されている科目を除く)			政治学の最前線	2~4					第1外国語	4	外国語	0~6				E、F、G	2~26						
			BB2				経済学の最前線	0~4					第2外国語	4	国語	0~2				B A (専門基礎科目として指定されている科目を除く)	0~12						
			BB4				社会学の最前線 チュートリアル 法学の最前線 チュートリアル 政治学の最前線 チュートリアル 経済学の最前線 チュートリアル	0~4					情報	4	芸術	0~2				BE							
	単位合計	0			61~84	0		4		8~20	0			16		1~15	0	0			12~36			0	20	106	0

# 2022・2023年度入学者

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																											
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目								計			合計						
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目		単位数	自由科目	単位数			
政治学	-	-	BB32	6~12	-	-	政治学概論 国際政治史	4	社会学基礎論 現代社会論	6~12	-	-	総合科目(フェーストイヤーセミナー、学問への誘い)	2	総合科目(学士基礎科目)	1~3	-	-	-	教職に関する科目	0~8	-	-	20	106	0	126	
			BB31	24~42			法学概論 民法法概論 経済学基礎論 現代経済史		社会学の最前線					体育	2	体育	0~2				A、B、C、 H、W、 Y、8、9、9	10~20						
			BB1	31~54			社会学の最前線		社会学の最前線				第1外国語	4	外国語	0~6				E、F、G	2~10							
			BB2		法学の最前線	2~4				情報	4	芸術	0~2							B A (専門基礎科目として指定されている科目を除く)	0~12							
			BB4		政治学の最前線 経済学の最前線																BE							
			(専門基礎科目として指定されている科目を除く)					社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線	0~4																			
	単位合計	0		61~84	0		4		8~20	0			16		1~15	0	0			12~36	0	20	106	0	126			

# 2021年度入学者

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																											
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目								計			合計						
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目		単位数	自由科目	単位数			
政治学	-	-	BB32	6~12	-	-	政治学概論 国際政治史	4	社会学基礎論 現代社会論	6~12	-	-	総合科目(フレッシュマン向け、学問への誘い)	2	総合科目(学士基礎科目)	1~3	-	-	-	教職に関する科目	0~8	-	-	20	106	0	126	
			BB31	24~42			法学概論 民法法概論 経済学基礎論 現代経済史		社会学の最前線					体育	2	体育	0~2				A、B、C、 H、W、 Y、8、9、9	10~20						
			BB1	31~54			社会学の最前線		社会学の最前線				第1外国語	4	外国語	0~6				E、F、G	2~10							
			BB2		法学の最前線	2~4				情報	4	芸術	0~2								BE	0~12						
			BB4		政治学の最前線 経済学の最前線																							
			(専門基礎科目として指定されている科目を除く)					社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線 社会学の最前線	0~4																			
	単位合計	0		61~84	0		4		8~16	0			16		1~15	0	0			12~36	0	20	106	0	126			

## 政治学主専攻 履修ガイド

政治学主専攻の科目体系は下図の通りである。

1年次	2年次	3年次	4年次
			卒業論文
		政治学演習I・II	政治学演習III・IV
	比較政治学、アメリカの政治、国際政治学、 国際安全保障論、行政学、地方自治論、 日本政治思想、現代政治外交、計量分析入門、 国境を越える政治、国際政治経済学		
	政治学外書講読I・II		
	政治学入門演習		
政治と社会			
専門基礎科目必修：政治学概論、国際政治史			
専門基礎科目選択：政治学の最前線			

(註) この他にも、他学類等が開設主体の科目で政治学主専攻の専門科目として履修できるものがある。詳細は開設授業科目一覧を参照。

1. 講義科目は、政治学の理論、思想、歴史、行政学、国際政治などをバランスよく、かつ基礎から応用まで段階的に学修することができるように提供されている。原則として2単位・学期完結で実施する。
  2. 政治学外書講読I・II（英語）は、政治学の英語文献を読みこなす能力を育成する授業であり、平成23～30年度入学者は1単位以上履修しなければならない。なお、科目名のIとIIは難易度・レベルを示すものではない。
  3. 政治学入門演習は、政治学の基礎的な知識を学ぶとともに、専門演習の準備段階として文献講読やプレゼンテーションのトレーニングなどを行う。必修ではないが、政治学主専攻を志望する者は2年次\* に履修することが望ましい。
  4. 政治学演習I～IVは、より専門性を深め自己の研究テーマについて探究する授業である。政治学主専攻の演習科目は、他主専攻とは開講形態が異なるので注意が必要である。I～IVのいずれも担当は政治学主専攻全教員だが、実際には各教員がそれぞれに授業を開講する。したがってTWINSで履修申請した上で、どの教員の授業を履修するか担当教員に申し出ること。演習IとIIは3年次\* 対象、IIIとIVは4年次\* 対象である。また、IとII、IIIとIVの間にそれぞれ違いはない。なお、同じ教員の演習を同じ年度に複数履修することはできない。卒業要件を満たすためには、I～IVのうち6単位以上履修することが必要である。また、3年次\* で履修しなかった教員の演習を4年次\* で履修したい場合は、あらかじめ担当教員の許可を得なければならない。
- 秋学期入学者の場合、上の文中の「2年次」は1年次春～2年次秋、「3年次」は2年次春～3年次秋、「4年次」は3年次春～4年次秋と読み替えること。

# 経済学主専攻

## 経済学主専攻について

1 (注意) . 2022年度から「実証分析入門」が、2021年度までの「経済統計論」に該当する。履修細則の別表中の「経済統計論」を「実証分析入門」として履修計画を立てること。したがって、専門選択科目として、【ミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学、実証分析入門】のうちから4単位以上を修得しなければならない。

2 (注意) . 2023年度以降入学者から、次ページ別表のように、別途指定するBC (国際総合学類)、FH (社会工学類) の一部の科目を、専門科目－選択科目として認める。ただしこれらの指定された科目は、2023年度以降入学者から、基礎科目－関連科目－選択科目には該当しないので充分注意すること。

これら別途指定するBC、FH科目は、**掲示**によって指定する。2023年度以降入学者は、本件の掲示に充分注意すること。

3. 履修は、各自が入学した年度に配布された『履修要覧』に従わなければならない。ただし、編入学生の履修は、自分が入学した学年が1年生だった時の『履修要覧』に従う。履修要覧の「履修細則」と別表に従い、各自の関心と志望する主専攻分野に沿って、履修計画を自主的に立案すること。

4. 主専攻分野の決定の目安となる条件 (履修科目及び単位数) は、次のとおり。

### 主専攻分野の決定に必要な条件

単位数の総計が30単位に達していること。  
【専門科目及び専門基礎科目 (経済学基礎論、現代経済史の4単位を含む。) の12単位を含む。】

5. 各経済学演習は春と秋に分けて開講されるが、同一ローマ数字 (Ⅱ、Ⅹなどの表記) の科目を通年で履修しなければならない。(海外留学と休学の場合に限り、通年で履修しなくてもよい。)

6. 卒業に必要な条件 (履修科目及び単位数) は入学時に配布された「履修要覧」に従うこと。なお、同一の学期・曜日・時限に開設される科目を2科目以上履修することはできない。

7. 名称および科目番号が全く同一の科目は重複して履修できない。(ただし、例えば経済学演習Ⅶ-3と経済学演習Ⅶ-4は異なる科目である。)

8. 履修申請の際には、申請漏れや変更がないように十分留意し、所定の期間内に手続をすること。卒業論文の履修者は各自の主たる指導教員から指示を受けたうえで本手引きにも記載のある年間スケジュールで定められた題目届を提出し、論文提出時期を厳守すること。

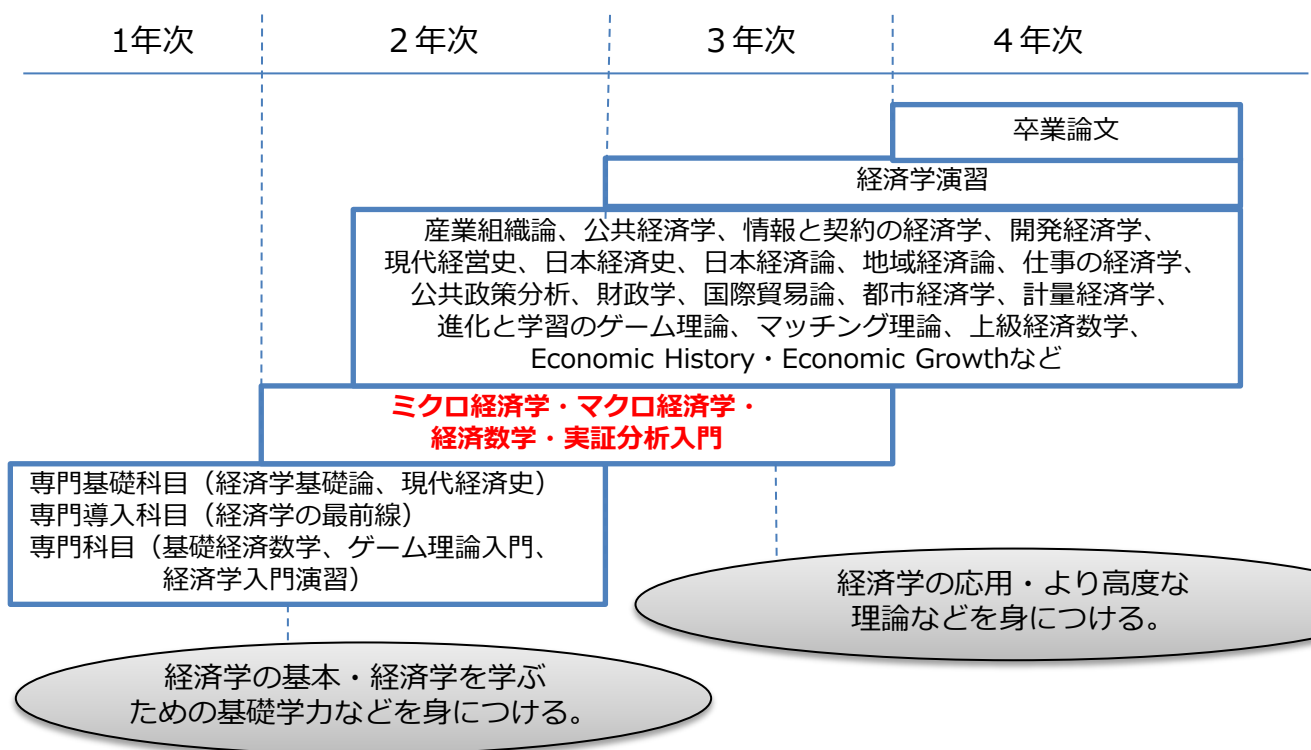
9. 社会学類開設の授業科目のなかで、他学類開設の授業科目と共通の授業科目 (開設授業科目一覧の備考欄に表示) は、必ず、社会学類の授業科目番号 (例えばBB4) で履修申請を行うこと。





# 経済学主専攻 履修ガイド

履修の仕方としておすすめできるモデルケースを紹介します。



**経済学は極めて体系的な学問である。順次、段階的に学んでいく。**学習レベルに沿って抽象度が高まり、学問の適用範囲がそのレベルに沿って広がる。経済の歴史的知識も適用事例を見出していくうえで非常に重要かつ有益である。よって、まず専門基礎科目群（経済学基礎論・現代経済史など）を履修し、経済学の基礎的な考え方や事例を学ぶ。さらに専門導入科目（経済学の最前線）を履修すると先端的な研究の一端を垣間見ることできる。

専門基礎科目群（経済学基礎論・現代経済史）に続く**専門科目を理解するには、数学や統計学の基礎知識も必要である。**そこで**基礎経済数学**、ゲーム理論入門、**実証分析入門**を履修して基礎知識を得る。上級生（3年次以上）になると、**経済学演習**（通称、ゼミナール）が始まる。それぞれの演習で扱われる専門的な内容を理解するには、基礎知識だけでなく、教員を交えて少人数で主体的に学ぶ姿勢も要求される。

経済学には様々な専門分野や応用分野がある。これらを2・3年次以降の講義科目として履修していく。それらの多くは、**ミクロ経済学**、**マクロ経済学**、**実証分析入門**の内容を基礎とする。したがって、これらを**2年次終了時までを目安に履修することによって**専門分野の学習効果が高まる。基礎的なミクロ・マクロの知識を運用する力をつけるため、**経済学入門演習**（主として1・2年生対象）も履修が薦められる。

3年次以上が履修できる**経済学演習**（ゼミナール）では、1・2年次に培った基礎学力・理論的な思考力をベースとして、より高度な経済学の専門分野について、教員を交えた少人数で学生が主体的に学んでいく。1・2年次の共通の知識の土台の上に、学生それぞれが自身の興味にそった専門分野を選択し、積極的に参加して知識を深めていくことが求められる。

大学における各自の学習の集大成として、4年次には卒業論文の指導も受けることができる。卒業論文を履修する場合は、演習などの主たる指導教員のアドバイスを受けること。